

「第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」の策定に向けた意見聴取

01 全般

分類	意見内容（要約）	振興局
1 クラスタ事業	○ 畜産クラスター事業では、建築基準法などの要件で補助を諦めている状況にある。施設については、畜舎に関する規制や畜舎建築基準のあり方について検討、緩和が必要。	十勝、上川、オホーツク
2 その他	○ 酪農の仕事でもGAP認証等について考えることも必要になってくるのかもしれない。	宗谷
3	○ 近年、ICT機器を有効利用した飼養管理を推進しているが、ICT機器を活用する上で、高速通信網の整備が不可欠。現状では牛舎に電波が届かない状況。	根室、釧路
4	○ 経営継承を行う場合やより経営基盤を安定させるための法人化の場合の資産継承に課税されることが想定されるため納税猶予や免税等の税制支援も検討願いたい。	檜山

02 酪農

分類	意見内容（全文）	振興局
5 家族経営への取組み支援	○ 家族経営が取り組みやすい事業の検討が必要。 ○ 豪雪地帯では畜舎の建設コストが高い。建築基準の緩和などの検討が必要。	後志、上川、渡島、宗谷
6 担い手（第三者継承）	○ 新規就農は、就農直後から生産に移ることができる第三者継承を中心にするべき。また、研修牧場では、一連の作業を経験できないこともあるため、就農希望者にとっては酪農ヘルパーとして様々な経営や実践的経験を積む必要がある。	根室
7 担い手（新規就農）	○ 老朽化が激しい物件においても、スムーズな就農を実現させるための取組（離農予定者が離農前に施設改修等を積極的に行えるような仕組みづくり等）について、今後、各地域で検討する必要があると思われる。	宗谷、根室
8 労働力の軽減	○ 酪農ヘルパーという職種の地位向上への取り組みも必要であると考え。特に定着に関しては現状の雇用形態では職種として魅力が少ない。	オホーツク
9	○ 検定員不足が深刻である。そのため、検定員の確保に向けた取組の他に、毎月の検定員の立会がなくても確度の高い検定データを得られるような体制づくりやシステムの研究開発を推進すべきと考える。	根室
10 乳牛改良	○ 現在、ホクレンでは全農と共同で「耐病性」、「繁殖率向上」が良いホルスタイン以外の品種（仏モンペリアート種）を交配させるクロスブリーディングを行っており、こうした異品種との3元交配による長命連産の乳牛改良に取り組んでいくように考えてほしいです。	宗谷
11	○ クロスブリーディングについて、一度交雑してしまうとその技術のもと交配をし続けなければいけない。 ○ ホルスタイン種のみでの交配でも、生産性だけでなく、強健性も意識した配合を重ねることで長くもつ牛づくりは可能。	根室

03肉用牛

分類	意見内容（要約）	振興局
12 飼養管理	○ 繁殖経営で近年の所得水準を確保するには、販売頭数の増産が求められることから、分娩間隔の短縮と事故率の低減の取り組みは「待ったなし」の状況と思われます。	渡島
13 経営安定対策	○ 酪農経営による性判別精液の普及が進みホル雄の生産頭数が近年減少し、価格が非常に高い。 ○ 乳用雄育成経営を行っている生産者にとっては大変な状況にあるので、今後も引き続き乳用雄育成経営ができる対策等を要望。	檜山、上川
14	○ コロナウイルスの長期化の影響による輸出規制による国内在庫をどのように対策をしていくかも酪肉近の中に盛り込むことも必要ではないでしょうか？	宗谷
15 労働力	○ 広域哺育施設等に民間・行政が参入しやすい仕組みづくり。 ○ 労働力確保の為、肉用牛ヘルパー組合を設立したいが単独での運営は困難、酪農ヘルパーと肉用牛ヘルパーの兼業を支援するような取組みが必要。	オホーツク
16 ブランド化	○ ブランド化を進めるに当たり、どのような牛肉の品質、規格のものを目指すのか、具体的に示す必要がある。 ○ それによって、牛群改良の方向が容易となり、生産コストの低減にも繋がっていくものとする。	十勝、オホーツク、根室

04飼料

分類	意見内容（全文）	振興局
17 労働力の軽減	○ 現状、コントラクターが充実することにより、飼料生産が安定してきているが、オペレーター不足等課題が多い。	宗谷
18 植生改善	○ 採草地の難防除雑草対策が急務であるため優良粗飼料確保の観点から植生改良に対する技術指導支援を願いたい。	檜山、渡島
19 基盤整備	○ 営農の維持・生乳生産拡大には、容易に良質粗飼料を確保できる基盤が必要であり、道東とそれ以外の地域の違いを感じる。	宗谷
20 耕畜連携	○ 畑作地帯の場合、飼料面積を確保出来ない。粗飼料の安定確保の為、畑作農家への支援を行い飼料作物の作付けを促すような取組みを検討頂きたい。	オホーツク

05畜産環境

分類	意見内容（要約）	振興局
21	バイオガスプラント ○ FITを利用したバイオガスプラントにおいて、送電網の容量不足が大きな足かせになっている。既存のバイオガスプラント整備には多額の費用が必要となるため、支援事業は必須であり、また活用するにあつての要件緩和は必須である。	十勝
22	○ 蓄電池装置を考えた地産地消できるエネルギー開発をすることで、家畜排泄物の問題の解決につながると考えています。	オホーツク
23	糞尿処理施設 ○ 補助事業を活用した糞尿処理施設について、耐用年数（17年）を超えてきている施設の割合が年々高くなってきている。 安全管理の面において改修工事にかかる費用についての補助事業を具体的に検討する必要がある。	宗谷、十勝、根室

06家畜衛生

分類	意見内容（全文）	振興局
24	慢性疾病 ○ 牛伝染性リンパ腫（牛白血病）は、牛群内の陽性率増加は農場の大きな経営リスクとなりかねないことから、検査の積極的な推進や助成の措置が望まれます。	石狩、オホーツク
25	○ 家畜衛生対策の推進にサルモネラ感染症も加えていただきたい。未然防止のための予防対策の推進の他、発生した際の対策費用の確保支援等を盛り込んだ計画をお願いしたい。	上川
26	獣医師対策 ○ 獣医師の確保に万全を期して頂きたい。	檜山、宗谷
27	水際対策 ○ 海外からの悪性伝染病の水際対策が非常に重要。外国人労働者などが持ち込んでくる肉製品が非常に心配。	後志
28	乳房炎対策 ○ 乳房炎対策として乳房炎ワクチン（スタートバック）の普及推進。	オホーツク

07生乳流通

分類	意見内容（全文）	振興局
29	生乳流通 ○ 生産した生乳を一滴も無駄にしない取組が必要では無いか。各種事業を活用して施設整備・増頭を行って増産した経営体は“生産調整”等に繋がると投資効果をあげるどころか自己負担の償還にも支障を来し、生産の安定化が図られない。	オホーツク